令和７年度　　学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：23010

実態

「学ぶ力」

これまでの　成果	課　題
◇発問により考えにずれを生み、その子どもの考えを**関連付ける**ことで問いを生むと同時に、**活動の見通し**ももたせた学習を展開することができた。 ◇自己判断の場面で、一人一人が黒板にネームカードを貼る等の活動をすることで自分の考えがはっきりとし、**自分事として考え、活動すること**ができた。 ◇自校で行った学びに関するアンケートにおいて、「自ら課題を見付け、解決への期待をもって学習している。」に肯定的に回答した児童が８割を超えた。	◇子ども自身が用いた言葉で、考えを**比較しながら学び合う**場面をもっと設定すべきであった。子ども自らが違いに着目して比較する「**紡ぐ**」**学び合い**によって、新たな知を獲得する。 ◇学習が、中心となる発言をする子に頼りがちになる場面も見られた。振り返りなどによって、グループで行った学びを個に返していく必要があった。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く**相互承認の感度**〉　の現状と課題

◇札幌市の共通指標のアンケートにおいて、「自分には良いところがある。」と答えた児童は、83%に上った。「人の役に立つ人間になりたいと思う。」と答えた児童も 89%と高い水準である。また、「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている。」と答えた児童は 83%で、昨年度よりも肯定的な回答が増えた。一方、「意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている。」という設問に肯定的に答えた児童は 67%と他の設問と比べ低かった。引き続き、自己肯定感を高められる関わりをしながら、より主体的に学びに向かう関わりや授業の工夫をしていくことが重要である。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

問いを見付け、学びに向かう力
考えを交流し、新たな見通しをもつ力

取組

AAR サイクルの視点で捉え直した **課題探究的な学習**の推進

◇研究副主題「子どもが自ら学び続けるために、思いを紡ぐ学習」の実現

・思いをもち、問いに繋がるイントロダクションの設定
・思いから、子ども自身が判断をし、方法を選択できる個別探究の場の設定
・思いを伝え合い、新たな考え・見通しをもつ協働探究の場の設定
・新たな思いをもつリフレクション
　特にイントロダクション・協働探究の場面において、どのような手立てが有効かを模索していく。

さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく **自治的な活動**の充実

◇全校での運動週間（秋マッチョ）の取組
◇休み時間における学級遊びの充実
◇異学年との関わりに重点を置いた「あいさつのバトン」
◇読書週間の設定
◇委員会活動の内容見直し、全校イベントの充実

〈本プログラムの実行に向けて〉

新年度
◇本プログラム共有
・職員会議
・研究全体会
・パートナー校間研修
・学校ＨＰに掲載

〔一人一人の教職員〕
◇日常の授業・教育活動
◇各自の研修…札教研、年次研修等

〔学校全体〕
◇実践交流
◇校内研修
◇子どもの育ちを共有

次年度へ
◇学校評価
◇成果と課題を共有
・研究全体会